

お盆は、仏教の行事です。

お盆になると、電車の中や街でお坊さんを見かけたことがあるでしょう。棚経たなぎょうとい  
って、お檀家さんのお宅を順に回り、お経を唱えます。それぞれの家では、盆棚ぼんだなをつ  
くり、数々のお供え物をあげ、ご先祖様をお迎えします。お坊さんは、盆棚の前で、  
供養のお経を唱えるのです。

先ほど、お盆は仏教の行事と申しましたが、実はお盆は、主にインド、中国、西ア  
ジアなどのアジアの国々の先祖供養の考え方と仏教が出会い、形作られてきた行事な  
のです。日本に伝わってからも、日本古来よりの先祖供養と結びついていきました。

お盆は仏教の行事ではありますが、日本を含めたさまざまな国の先祖供養と結びつ  
いているのです。ですから、インドで生まれた仏教の教えが、そのままお盆という行  
事に当てはまるものではないのです。

しかし、仏教はお盆という先祖供養の行事に深く関わってきました。

なぜなのでしょう？

私たちは、一人では生きてはいけません。私たちは、自分以外のあらゆる存在とつ  
ながりあっています。

それは、例えば、花と蜂の関係に見ることができます。

蜂は、花の蜜を吸って生きています。そして、花は、蜜を吸う蜂に花粉を付着させ、  
雌めしべと雄おしべの仲立ちなかだをしてもらいます。ふたつの存在のつながりあいです。

このありようを、仏教では「縁起えんぎ」といいます。「縁起がいい」の「縁起」です。

「縁起えんぎ」の範囲は、とても広いものです。それはさながら、無限に広がる蜘蛛の巣くも  
の網のようなものです。

私たちは、自分につながるいのちがいなかったなら、生まれていないのです。両親  
をはじめとした、数えきれないほどのいのちのつながりは、私たちの存在の礎いしずえにな  
っています。すなわちご先祖様は、私たちのいのちの源みなもとなのです。

お盆は、この自らのいのちの源について、改めて思いを深め、感謝をする時間です。  
遠い過去から自分につながる「縁起」のありようを確かめる機会なのです。  
だからこそ、仏教は、お盆という行事に深くかかわってきたのです。

どうか、この豊かな時間を、できるかぎり心静かにゆったりと、家族や仲間と共に、  
過ごしてください。そして、いのちについて、みんなで語り合ってみてください。